

2008 年

12 月号

平成 20 年 12 月 1 日発行

居宅ネット通信

目次

p1. __スキルアップセミナーを開催しました
p2. __チラシセミナー報告

p3. __居宅ネット会員事業所の紹介
p4. __事務局より
会費納入のお願い

自閉症がわかる・暮らしの工夫 スキルアップセミナーを開催しました

10 月 16 日 Part. 1

自閉症の方が持つ障がい特性と、暮らしやすい生活場面の構造化について、自閉症に詳しい佐々木正美先生(川崎医療福祉大学特任教授)からお話を伺いました。このセミナーは2回シリーズで、まずは10月16日におこなわれた第1回目の内容を簡単にご報告します。

130名の会場でしたが、150人を超える方々がお越しくださいました。申込を頂きましたのにお断りいたしました方には、申し訳ありませんでした。

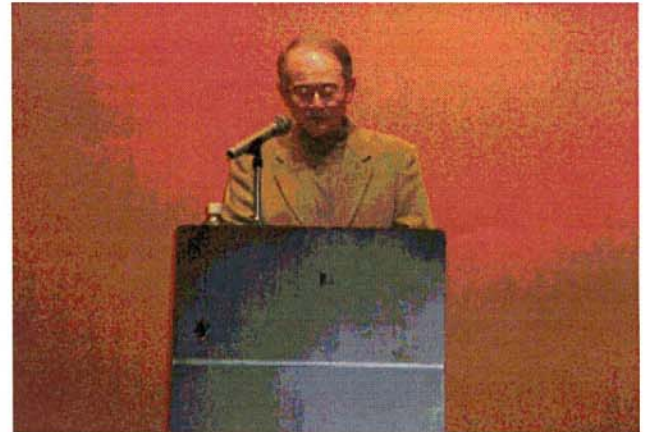
「発達障害を理解する」⇒「行動特性を知る」⇒「二次障害を防ぐ」⇒「教育・指導・支援への心得」⇒「教育・援助の基本」と段階を追ってお話を頂きました。たいへんわかりやすく、どこに注意して支援をしたらいいのかの視点を学ぶことができました。係わり方として、困難

を乗り越えさせる支援ではなく、支援する側が本人に合わせるように努力する、本人は困難である事実だけが残ってしまう、我々のように困難を乗り越える達成感はないと断言されました。

当事者の「自分たちのことを理解してください。理解できなければ、指導や支援はしないでください。」という言葉が印象に残りました。

次回は、物理的構造化・スケジュールなど現場で役立つ支援技術が中心の組み立てで、楽しみにしています。

事務局長 本多 公恵



人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方

コーディネーター研修

開催しました (2008年10月31日)

女性ならではの細やかな視点とするどい感性を生かした、共感することの多い講座内容でした。参加する前は実際に手でパソコンを使用しながらの公演と思っていたのですがそうではなく、牟田さんの軽快で華やかな語り口に引き込まれ、あっという間の時間でした。牟田さんはこれまでの仕事の経験のなかで、「内容の良い講演会やイベントでも、案内のチラシと企画が良くなければ人の心をつかむ“人を集める”ことができない。」「人が来る面白さとは一体何か？」と身をもって強く感じられ、考え追求されたことによりその思いを伝えるために自ら本を出版されました。(講談社+ a 新書 人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方 800円)

今では講座申し込み率3.3倍を誇る「ヒット企画仕掛け人」として全国各地から講演要請があり多忙に飛び回っているとの事。その多忙な中でも必ずコンビニなどで、さまざまな世代向けの雑誌を読み、タイトルのヒントを探る努力を欠かさずにされているそうです。

今回の講座で、セミナーや講演会のお誘いのチラシ1枚にしても人を呼ぶチラシとそうでないダメダメチラシとの差を知る事ができました。同じ講演会のお誘いのチラシが2例あり、どちらが良いか比較検討しながらグループで話し合いそれぞれの意見を出し合いました。最後に答え合わせをし、参加者同士も打ち解けた雰囲気でのぎやかに検討できました。

ペーパー上の目線で目立つレイアウトの仕方や、タイトルに使用する際の書体の良し悪しの例もあげてみたり・・・と、実際に気をつける点が多く役立つものばかりでした。

牟田さんの感じる“3大ダメダメチラシ”というのがあり、その内容は・・・①役所の書類みたいな漢字だらけのむずかしいチラシ②前年度のレイアウトとまったく同じで日付けだけを変更した「前年度踏襲型チラシ」③作成者の思いを一方向的に表現した「自己満足型



チラシ」というものでした。そうならないために、関連するイラストを入れ面白みを出してみたり、タイトルやサブタイトルに心をつかむうまいキャッチフレーズ(年代や性別によってツボをつくものが違うそうです。)を効果的に使うことで魅力あるチラシに大変身。

実際に講演会を設定する際も「どんな年代の人々にニーズがあるか」を把握することで、公演日時や場所もスムーズに決められ、かつ定員割れのする人の集まる講演会になるそうです。ターゲットと、その人たちがどのような目的「ゴール」を目指して講座申し込みをするのか・・・？主催者側の目標などは関係なく、受講者にとり「役に立った」「楽しかった」と思ってもらえる講座でないと、人は集まらない。とのお話でした。

当たり前のように、企画する立場の者はなかなか気がつかなかった点、それは“ニーズを知ること”が鍵を握っているのです。私たち福祉の仕事で利用者さんに接する際にも“心を探る”ことは大切なことであり、同じ共通点を感じました。
NPO 法人わたげ 高梨芽衣

居宅ネット 会員事業所 紹介

NPO法人ほおずきの会 ヘルパーセンターほおずき



ヘルパーセンターほおずきは、NPO 法人ほおずきの会が運営母体の事業所です。平成 15 年の支援費制度とともに立ち上げました。利用者の 99%が知的にハンディをもつ方です。

東京の東側、台東区に拠点があり、ほとんどの利用者が台東区在住の方です。

ヘルプの内容としては、主に平日は、習い事やほおずきの会学齢部門拠点への送迎が多く、休日は、余暇活動の付き添いとなります。さすが東京、遊ぶところは豊富です。地元で浅草、上野があるので、ほとんどお金をかけずに遊ぶことができますし、少し余裕があれば、お台場や水族館、映画館や博物館、科学館、プールなどいろいろなところに出かけています。また、ヘルプ以外の事業として、台東区からの委託を受け、緊急一時保護事業も行なっ



木場公園でくつろぐ利用者

ています。保護場所は、学齢部門や成人部門の拠点を借りています。来年度は、台東区の委託で知的のガイドヘルプ研修も行う予定です。目下の悩みは、登録ヘルパーの不足と財政難です。知的ヘルプ中心の事業所の限界なのか、宿命なのか…数字を見てはため息ですが、ヘルプのときに出会う利用者さんに励まされながらの日々です。

〒111-0021 東京都台東区日本堤1-32-3
TEL & FAX 03-3871-4035
E-mail: h-hozuki@sa.il24.net
URL: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/poteto/>

社会福祉法人ドリームヴィー ドリームステーション

社会福祉法人ドリームヴィーは、「王子養護学校の卒業生を応援する会」が土台となり、「障害者が地域で安心して、豊かに生きていけるようなサポートがほしい。」という声をもとに平成 11 年にできた法人です。

ドリームステーションは、その中で平成 16 年に居宅介護事業としてはじまりました。

親御さんが年をとってご本人たちと今までのようなお出かけをするのは難しい、人気のスポットに行ってみたいけど、一人では不安…そんな方々に移動支援サービスを利用していただいています。

また、はじめは移動支援が中心だったドリームステーションですが、一人暮らしの方への生活支援や、ご家族がお留守の間の支援などご自宅でのサポートも増えてきました。

作業所や企業で働く方が仕事から帰って来た後、ヘルパーとともに一緒にお食事を作ったり、掃除、洗濯などのお手伝いをしたり…。利用者さんも、ご自分で材料を切ったり調味をしたりとお料理の腕も徐々に上達しています。

障害のある人の生活に安心と充実を届けたい、そんな思いをもったヘルパーとともにドリームステーションは活動しています。



〒114-0034 東京都北区上十条2-1-12
TEL & FAX 03-3906-5558
HP: <http://dream-v.or.jp>



事務局より



行動援護研修 受講料補助のおしらせ

東社協と一緒に企画をしております【行動援護従業者養成研修】ですが、今年度の第2回目は2月12・13・16日の3日間でおこないます。

今年度、居宅ネットでは会員となっている事業所からの受講生(1事業所につき2名まで)の受講料を小額(1名につき3,000円を予定)ながら補助させていただくことになりました。

詳しくは「居宅ネット事務局」までお問い合わせください。

告知コーナー

告知したいことがある方は事務局までどうぞ。。。。

NPO法人「PandA-J」設立記念

「ばんだの元気」障害者の権利擁護と成年後見のお知らせ

なんてたって新しい時代の福祉は利用者(障害者)が中心にいないとなりません。そのためには権利をしっかり守り、成年後見も活用しないとね。でも、なんだか難しそうだし、面白そうでもないし……ということ、人気なかったんですね。そこで、PandA-J(ばんだ)が誕生しました。そのお披露目ということで、「ばんだの元気I」をやります。

【主催】NPO法人 PandA-J(代表 野沢和弘、副代表 大石剛一郎・堀江まゆみ、杉浦ひとみ、関哉直人)

【参加対象】どなたでも。定員;200名

【会場・場所】日本財団ビル2階 大会議室(〒107-8404 東京都港区赤坂1丁目2番2号)

【日時】2008年12月18日(木)午後6時

【参加費】シンポジウム無料、物産展1000円

■ばんだ1「おれの後見人を紹介するぜ」情報誌「PandA-J」の表紙を飾った人たちが語る成年後見制度。

米田光春-菊地哲也(弁護士) 別府数人-大塚めぐみ(後見スタッフ) 大矢和則(社会福祉士)

コメンテーター 大石剛一郎弁護士、関哉直人弁護士

■ばんだ2「ラブレターはいらない」障害のある本人たちが語る「恋」「夢」「地域生活」……。

南雲明彦、米田光春、別府数人

コメンテーター 愛本みずほ(「だいすき!」原作者)

■ばんだ3「パンダな人々、紹介します」PandA-Jを制作しているスタッフの紹介コーナーです。

・まゆまゆ……堀江まゆみ&相原まゆみ ・そねぼー……カメラマン曾根原昇

・現役記者……太田敦子(NHK記者)、市川亨(共同通信)、遠藤哲也(毎日新聞)

・とがちゃん……デザイナー富樫&タクトスタッフ

■ばんだ番外編「おいしいもの集合!福祉施設のうまいもの物産展」in日本財団

日本財団が今進めている「障害のある人たちがつくったおいしいもの物産展」をやります!

【参加申込について】必要事項をご記入のうえ、下記連絡先まで、メールか、Faxにてお申込下さい。

申込締切日 平成20年12月17日(水)※申込者多数の場合は、受付順に定員。連絡がないときは参加可能。

■連絡先 NPO PandA-J 事務局 E-Mail info-genki-panda@shiraume.ac.jp Fax 042-344-1889

■必要事項 氏名(ふりがな) 住所(県・市町村名) 所属 連絡先(電話番号・E-Mail)